

病理学各論実習

科目責任者 石 田 和 之
学年・学期 3 学年・通年

I. 前 文

各臓器の様々な疾患の病態を主に形態学的観点から系統的に学習し、疾患の発症・進展に関わる分子病理学を併せて学習する。病理学各論は臨床医学のあらゆる分野の基本となる必須科目であり確実に習得しなくてはならない。単位は規定の出席日数を満たし筆記試験に合格した場合にのみ授与する。試験は講義で学んだ内容を中心に出题する。

II. 担当教員

教授 石 田 和 之 (病理診断学)
講師 金 子 有 子 (病理診断学)
講師 松 田 葉 月 (病理診断学)
助教 河 辺 昭 宏 (病理診断学)
助教 野 沢 友 美 (病理診断学)
助教 野 田 修 平 (病理診断学)
助教 高 岡 身 奈 (病理診断学)
非常勤講師 小 野 祐 子 (病理診断学)
講師 松 嶋 惇 (埼玉医療センター・病理診断科)

教授 矢 澤 卓 也 (病理学)
講師 矢 澤 華 子 (病理学)
助教 柏 木 維 人 (病理学)
助教 石 井 順 (病理学)
助教 岩 本 雅 美 (病理学)

III. 一般学習目標

病理学は形態を通じて疾患を学ぶことが求められる。実習では、疾患の病態を理解するために、病変部を正常と比較しながら組織学的に観察し、病変の重要なポイントを把握しまとめる力を養う。

IV. 学修の到達目標

- 1) 病変部を肉眼的・組織学的に観察し、正常との相違を理解することができる。
- 2) 病変部を観察し、基本的な病理学的所見を説明できる。
- 3) 疾患について、病理所見と臨床像を対比することができる（臨床病理相関）。
- 4) 各臓器疾患の診断に病理診断がどう活用されているか説明できる。

V. 授業計画及び方法 * () 内はアクティブラーニングの番号と種類

- (1: 反転授業の要素を含む授業 (知識習得の要素を教室外で済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態。)
2: ディスカッション, デイバート 3: グループワーク 4: 実習, フィールドワーク 5: プレゼンテーション
6: その他 空欄: 該当なし)

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担当者	アクティブ ラーニング
1	4	22	水	1	循環器 1	金 子 有 子	4

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担当者	アクティブ ラーニング
2	4	22	水	2	循環器 2	金子 有子	4
3		22	水	3	循環器 3	松田 葉月	4
4	5	20	水	6	消化器 肝疾患の病理	石田 和之	4
5		21	木	1	消化器 非腫瘍性腸疾患	石田 和之	4
6		21	木	2	消化器 腫瘍性腸疾患	河辺 昭宏	4
7		21	木	5	消化器 胃・十二指腸	石田 和之	4
8		22	金	1	消化器 食道	石田 和之	4
9		22	金	5	消化器 胆膵疾患の病理	石田 和之	4
10	8	27	木	2	呼吸器 非腫瘍性肺疾患の病理	矢澤 卓也	4
11		27	木	3	呼吸器 肺腫瘍・胸膜縦隔疾患の病理 (1)	矢澤 卓也	4
12		27	木	4	呼吸器 肺腫瘍・胸膜縦隔疾患の病理 (2)	矢澤 卓也	4
13	9	11	金	1	脳・神経 感染・変性疾患の神経病理	松田 葉月	4
14		11	金	4	脳・神経 脳血管障害の病理	松田 葉月	4
15		11	金	5	脳・神経 脳腫瘍の病理	松田 葉月	4
16	10	15	木	3	内分泌・代謝 内分泌の病理 (1)	矢澤 卓也	4
17		15	木	4	内分泌・代謝 内分泌の病理 (2)	矢澤 卓也	4
18	11	4	水	4	運動器 非腫瘍性疾患	金子 有子	4
19		4	水	5	運動器 腫瘍性疾患	松田 葉月	4
20		13	金	1	腎・泌尿器 腎腫瘍・尿路疾患の病理	河辺 昭宏	4
21		13	金	5	腎・泌尿器 腎非腫瘍性疾患の病理	小野 祐子	4
22		17	火	2	腎・泌尿器 男性生殖器疾患の病理	松嶋 惇	4
23		27	金	3	産科婦人科学 子宮頸部・体部の病理	河辺 昭宏	4
24		27	金	6	産科婦人科学 卵巣・付属器の病理	石田 和之	4
25	12	1	火	2	産科婦人科学 産科・胎盤の病理	河辺 昭宏	4
26		18	金	3	血液・造血器 血液・造血器疾患の病理 1	矢澤 卓也	4
27		18	金	4	血液・造血器 血液・造血器疾患の病理 2	矢澤 卓也	4
28		18	金	5	血液・造血器 血液・造血器疾患の病理 3	矢澤 卓也	4

1) 実習室内における注意点：

- ①始業とともに実習が開始できるよう、予め準備する。
- ②観察中は私語を慎む。実習態度は評価に反映する。

2) バーチャルスライド（コンピュータ上）での観察の注意点：

始業とともに実習が開始できるよう着座し、予め準備する。

病理学各論実習の各コマは、科目構成上、各臓器疾患別科目に組み込まれている。詳細は、各臓器別疾患科目の講義予定表を参照すること。

分類	コマ数
消化器	6
循環器	3
呼吸器	3
脳・神経	3
内分泌・代謝	2
血液・造血器	3
産科婦人科学	3
腎・泌尿器	3
運動器	2
計	28

VI. 評価基準（成績評価の方法・基準）

以下のとおり成績評価する。（ ）内は評価の割合。

定期試験（80%）、課題の内容（10%）、受講態度（10%）

※単位取得にはすべての実習への出席が必須である。

VII. 教科書・参考図書・AV資料

1) 臓器別各講義の参考書：各項参考

2) アトラス本：

正常画像と比べてわかる病理アトラス

アンダーソン病理学カラーアトラス メディカルサイエンス・インターナショナル

組織病理アトラス 文光堂、第6版

カラーアトラス病理組織の見方と鑑別診断 医歯薬出版、第7版

3) Web

日本病理学会HP→病理コア画像

基本的な画像が載せてある

VIII. 質問への対応方法

①随時、受け付ける。但し、事前に秘書を通じ、アポイントを取ること。

②原則、毎週月～木の12時～17時まで。但し、会議等により留守にする場合もあるので、予め連絡をとること。

IX. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

*◎：最も重点を置く DP ○：重点を置く DP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）	
医師としてのプロフェッショナリズム 幅広い教養、利他の精神、医師に求められる品格を身につけ、豊かな人間性を育み、他の医療者と協調して、多様な価値観を尊重する全人的な医療を実践できる	○
能動的学修能力 医学知識・技能を主体的に学び、情報・科学技術を活用して、生涯にわたって自ら問題を発見し、解決することができる	◎
地域医療の理解 地域社会における医療の役割と、その中核を担う意味を理解できる	
国際性 国際社会における医学・医療の動向や課題を理解し、課題解決に向けて行動することができる	○
リサーチマインド 研究活動における積極的な創造・発信に挑み、医学・医療の進歩に貢献することができる	○

X. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

課題について、間違いや誤解が多い点を随時解説します。

XI. 求められる事前学習、事後学習およびそれに必要な時間

事前学修（30分）：病理学各論Ⅰ、Ⅱ、Ⅲの対応する領域の内容を理解すること。

事後学修（30分）：教科書、配布資料を参考にして実習で学んだ疾患の臨床病理所見を整理する。所要時間等はシラバス別冊を参照。

*コマごとの詳細な内容はシラバス別冊に記載しています。

XII. コアカリ記号・番号

PS-02-08-01, PS-02-08-05, PS-03-04-14

PS-02-06-01, PS-02-06-05, PS-01-02-11, PS-01-02-12, PS-03-02-05

PS-02-07-01, PS-02-07-05

PS-02-03-01, PS-02-03-05, PS-01-02-08, PS-01-02-09, PS-01-03-18, PS-01-03-02, PS-03-03-03, PS-01-03-09,

PS-03-04-10

PS-02-14-01, PS-02-14-05

PS-02-02-01, PS-02-02-05

PS-03-04-16, PS-02-11-01, PS-02-11-05

PS-03-04-15, PS-02-10-01, PS-02-10-05, PS-02-09-01, PS-02-09-05 PS-02-05-01, PS-02-05-05, PS-03-04-12